

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I - 2	「事業所と地域のつきあい」利用者の介護度の上昇とともに、地域へ出ることが少なくなっている。有事の際など、地域の力を必要とする際に関係が希薄になっていることは問題と思われる。	現在、自治会へは加入しているが、職員の勤務等の調整を行い、地域行事への参加も検討したい。 外部評価において意見のあった散歩については施設内の庭で行ってはいるが回数は少ないので今後増やしていく。	職員配置については、寝たきりや重度化した利用者が多いことから必要数以上には配置している。 更にフレキシブルに動ける職員の配置を検討し、外出や行事参加をできる体制をとりたい。	6ヶ月
2	I - 6	「身体拘束をしないケアの実践」は、職員は理解はしているものの、利用者の身体の保護のためにやむを得ない利用者はいらるために議論となっている。施設としては、医師、看護師を含め介護職員と拘束の必要性を十分検討したうえで必要最低限の実施をしているが、慢性的にその状態に慣れないように心掛けている。	身体拘束ゼロに向けた取り組みを行う必要性は十分に認識しており、施設でも取り組んでいる。 まずは、利用者の安全のため、より良い生活のためにはどうすべきかを十分検討したうえで考えたい。	身体的状態により拘束を必要としない環境の整備を検討する。 各利用者について身体拘束が発生していないか否かをすべての職員で考える機会を設ける。	12ヶ月
3	VI-36	「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている。」は、地域が言葉の乱れがある職員は見受けられ、「親しみ」から利用者を「ちゃん」づけしたりという場面がある。	職員個々の接遇に対する考え方を再度学んでもらう。「親しみ」からでる言葉の乱れは、誤解を招くこともあり、常に利用者が人生の先輩であることを自覚してもらおう。	接遇研修の実施、標準語の使用や職員間においてもすべて敬語での対応を検討する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。